

第 11 回：晴れの場

教場長 田中仙融

最近「公の場」が少なくなったと思いませんか？

平気で歩きながら物を頂いたり、電車の中でお化粧をしたり、飲食をしたり。また、家庭にも居間はあっても、そこを団欒するというスペースに使うことは少なくなり、自分の部屋で過ごす自分だけの時間を楽しむ人が増えたように聞きます。

携帯電話の普及も大きく生活を変えた一つだと思います。

以前は電話をかけるのに時間を気にしたり、長電話をしていると、「早く電話を切りなさい」と注意されたり、今は時間も気にせずメールをし、電話も家族のことを考えたり配慮する必要が少なくなりました。

「なんと今は便利な」とも言えますが、人に配慮したり、人の気持ちを慮ったり、面倒だわと思いつつも遠慮したりすることが本当は大切だったのではないのでしょうか。

例えば服装を例にとり、晴れの場、公式の場を考えてみましょう。

今は、何処にでもラフな格好で行くというのが当たり前のようです。ジャケットやスーツを着ていると、改まりすぎていると感じることもあります。一時代前は、近所に買い物に行くとき、電車に乗って出かけるとき、特に銀座などに行くとなると、おしゃれをして出かけようと思った方も多いのではないのでしょうか？

「おしゃれをして出かけよう」という考えは、ある意味での非日常を楽しむということだと思います。いつもとは違った気分です。

茶人にとっての日常が稽古という切り口であれば、非日常は茶会や茶の湯に招かれることだと云えましょう。しかし、茶会が続けば非日常が日常の延長になってしまうのではないのでしょうか？いつもと同じ。伺う方側は日常の気分でも招く側は違います。招く側にとってはその茶会や茶の湯を催す日は「晴れの日、晴れの場」なのです。

相手の気持ちや準備する大変さを考えたならば、ちょっと普段よりも盛装を心がけませんか？ちょっと美容院でセットするでも、バッグや草履を普段の物と変えるでも。その気遣いが大切です。もちろん着物を場所と目的に合わせて正装していらしても素晴らしい相手に対しての礼儀の表し方だと思います。

自分の都合ばかりではなく、相手が招いてくださったことに対して礼をもって接する一つの形が服装であったり、持ち物や髪形であるということも思い出してくださいね。

これから年末年始を迎えます。どうぞ、非日常を相手への思いを込めて過ごしてください。